

# 伊勢市観光振興基本計画の検証結果 (平成29年度)

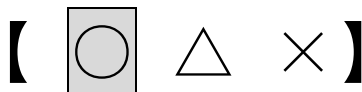
【平成30年3月末時点】

## ●5つの指標に基づく検証

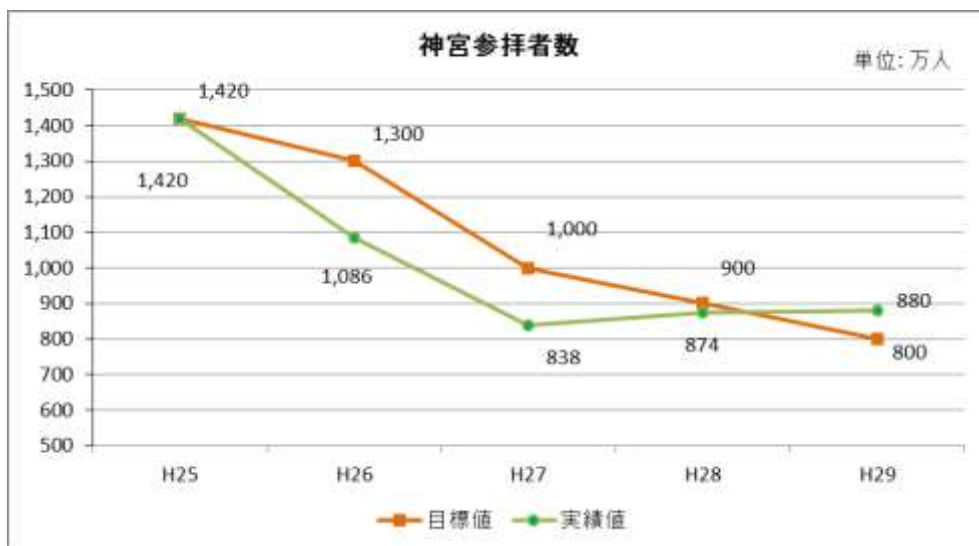
### 〈全体〉目標に対する達成度合い

- ・「参拝者数」「宿泊者数」は目標値を達成した。
- ・「参拝者数の比」は目標値を達成できなかった。
- ・「観光消費額」「満足度」の実績値は未確定である。平成30年夏頃、確定の予定。

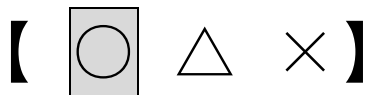
### 〈A 入込客数（神宮参拝者数）〉



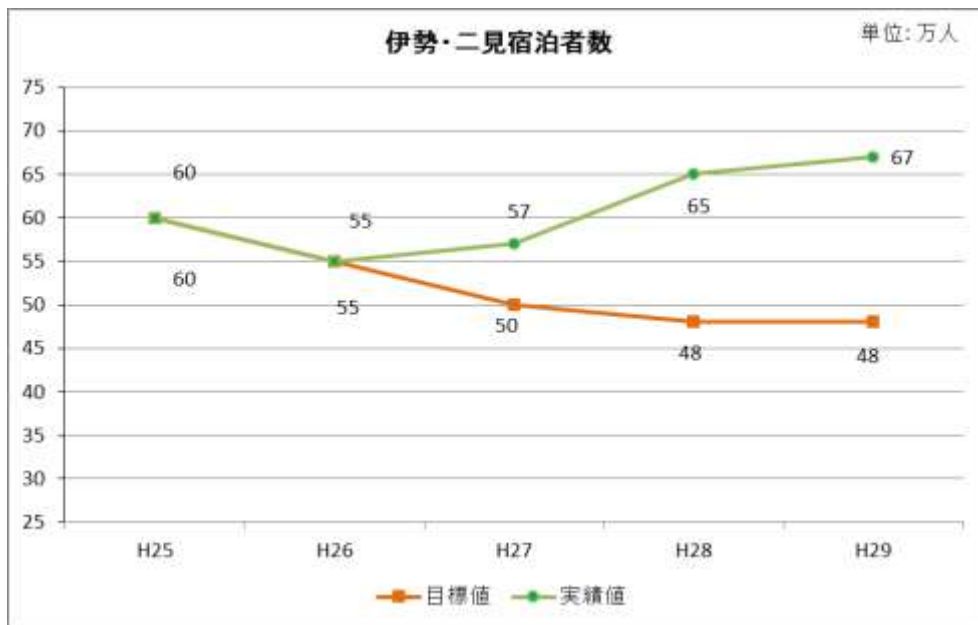
- ・目標値800万人に比して実績値が上回った。遷宮後4年が経過した現在でも800万人超と高水準を維持している。
- ・遷宮後、伊勢志摩サミットや菓子博などの大きな行事、イベントの開催も好機として継続して実施しているPRなど、数々の施策が功を奏していると考えられる。



〈B 入込客数（伊勢・二見宿泊者数）〉

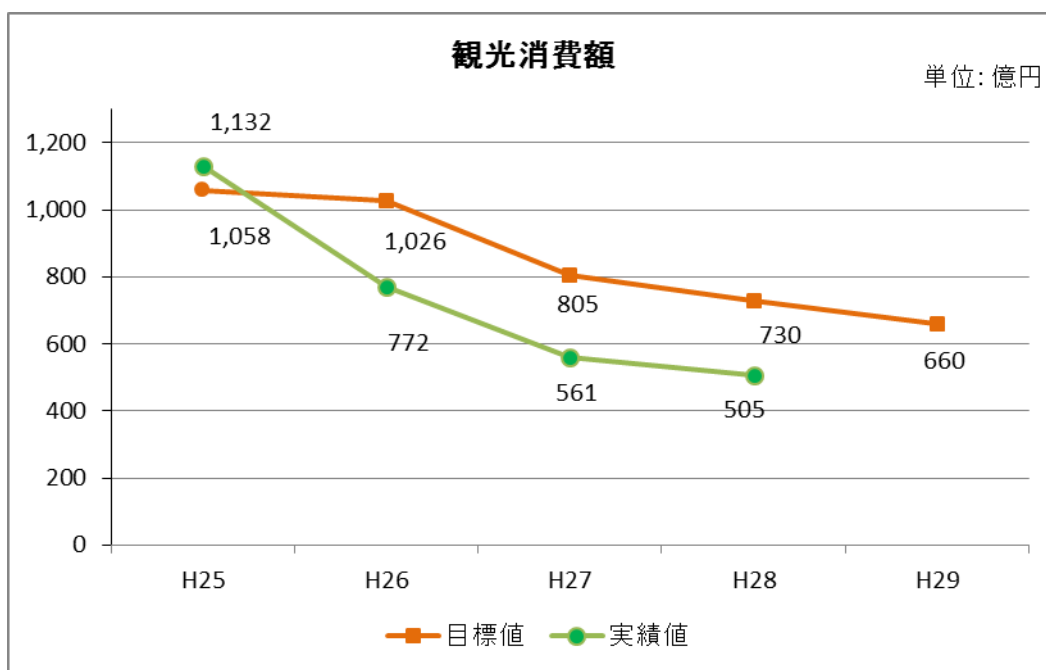


- ・目標値より大幅に上回る非常に好調な結果となった。
- ・宿泊施設の市内新規出店が続いていることが影響していると考えられる。
- ・一方で、廃業する旅館等も見られる。



〈C 経済効果（観光消費額）〉

※三重県観光客実態調査の結果が出ていないため H29 実績値が未確定

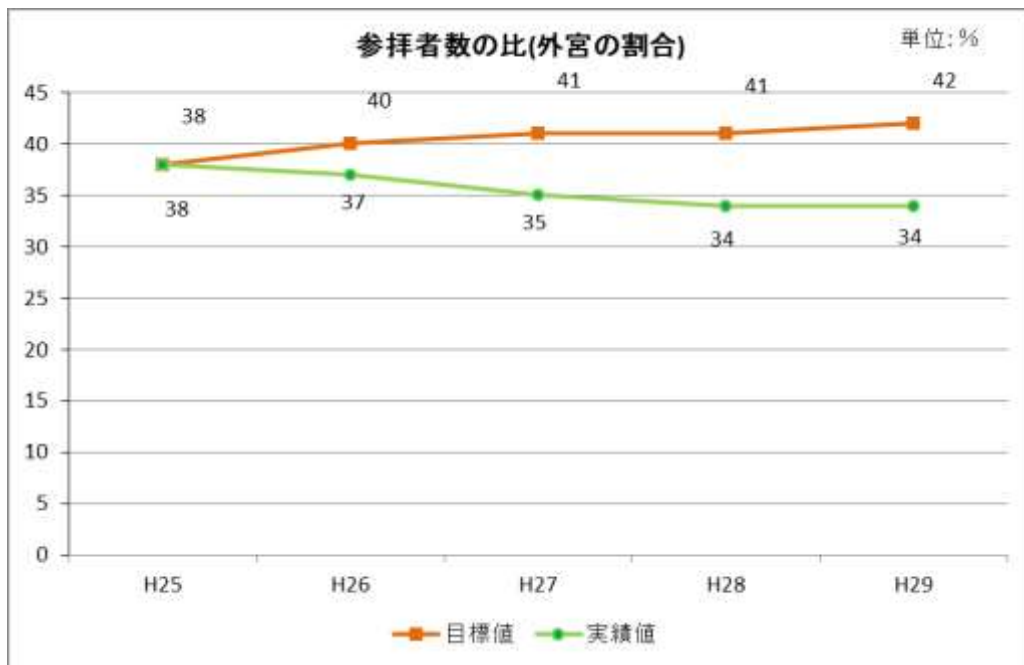


(注) 三重県観光客実態調査の数値を使用

〈D 経済効果（外宮・内宮 参拝者数の比）〉



- ・目標値 42 に比して実績値が下回った。
- ・一方で、平成 29 年の対前年比では内宮よりも外宮への参拝者数の増加割合が大きい結果となった。
- ・さらに市内周遊を促す取り組みが必要である。



〈E 満足度〉

※三重県観光客実態調査の結果が出ていないため H29 実績値が未確定



(注) 三重県観光客実態調査の数値を使用

H28 は三重県観光客実態調査をもとに算出した参考数値。

## ●基本方針に基づく取組みと検証

### 基本方針1「観光・交流を生み出す・広げる 新たな地域資源の発掘、開発・磨き上げ」

・潜在的な観光・交流の資源を地域で掘り起こし、磨き上げ、洗練することで、新たな魅力を発信し続けリピーターを飽きさせないようにすることが必要である。

【H26】伊勢神宮奉納全国花火大会や「神嘗奉祝祭 祭りのまつり」など集客力のあるイベントを継続して開催。

【H27】神宮と協働で遷宮記録映画の上映会を開催した。

ネイチャーツーリズムの一つとして朝熊ヶ岳参詣マップの作成を実施した。

【H28】若者向けの体験型旅行商品の販売に向けた企画・開発・宣伝等を実施した。

【H29】菓子博を契機とした食をテーマにした情報発信を行ったほか、まちあるきクーポンの作成や体験型旅行商品のブラッシュアップを行うとともに新商品の開発などを行った。(DMOとの連携)

【 ○ △ × 】

★課題★ 話題性や魅力ある新たな地域資源の発掘が必要である。

・来訪者の属性や目的、伊勢に求める潜在的なニーズを深く調査し分析した上で、新たな資源の発掘をする必要がある。

【H26】観光客実態調査の実施を開始した。

【H27】観光客実態調査や観光事業者に対し訪日外国人受入に関する現場の実態やニーズの調査を実施した。

【H28】観光客実態調査によりサミット前後の観光客の動向を分析した。また、観光事業者に対しサミット後の訪日外国人に関する実態調査を実施した。外国人観光客を対象としたアンケート調査も開始した。

【H29】観光客実態調査や外国人観光客を対象としたアンケート調査を H28 に引き続き実施している。また観光事業者向けの研修会で統計の説明を行った。

【 ○ △ × 】

★課題★ 実施した調査を分析し、観光事業者への情報提供及び事業の実施へつなげる必要がある。

## 基本方針2「観光・交流の負をなくす 笑顔で迎える受入基盤・環境の整備」

・すべての人が快適に過ごせる空間づくりを目指し、まち全体でソフト面・ハード面の両面で受入環境の整備を実施することが必要である。

【H26】 バリアフリーマップの作成及びホームページにバリアフリー情報を掲載した。

二見地域において観光客津波避難誘導看板を整備した。(H27 で完了)

【H27】 おもてなしやインバウンド、バリアフリーに関する講習会を実施した。

【H28】 平成 29 年 2 月から神宮参拝サポート『伊勢おもてなしヘルパー』のサービス提供開始。

【H29】 内宮周辺の滞在環境を向上させるため、宇治浦田街路広場に新規設置する公衆トイレの設計を行っている。



★課題★ 受入環境の整備が誘客にも繋がるよう情報発信も意識して実施する必要がある。

・今後増加することが予想される外国人観光客が満足を得られる受入環境整備を推進することが必要である。

【H26】 H25 に引き続き、多言語化補助金を実施した。(H27 で終了)

【H27】 観光案内所の英語対応可能スタッフ増員や外国人向け多言語マップを作成した。

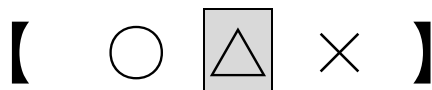
観光案内所及び手荷物預かり所に以前よりも多くの端末に同時接続できる Free Wi-Fi を設置した。  
また Free Wi-Fi の面整備について、将来の負担やセキュリティ面も考慮しながら公的に整備する必要があるかを検討開始した。

【H28】 ・内宮周辺、外宮周辺、二見の3エリアにおいて、英語まちあるきマップを作成した。

・宇治浦田観光案内所及び二見浦観光案内所が J N T O 外国人観光案内所に認定され、すべての市営観光案内所が J N T O 外国人観光案内所となった。

・観光案内所、手荷物預かり所への誘導看板設置を行った。

【H29】 外国人観光客実態調査（アンケート調査）やインバウンドエリアマーケティング事業（外国人モニターによるまちあるき調査）を実施した。



★課題★ 調査結果に基づいた施策を着実に実施していく必要がある。

### 基本方針3「観光・交流を地域一体で推進する 行政・事業者を越えた地域連携の推進」

・事業者同士が分野を越えて協力し合い、そこに行政も連携することで相乗効果を図る。また、夕方以降や早朝の滞在及び消費の促進、地域産業と連携する必要がある。

【H26】若者をターゲットに誘客キャンペーン「初 TABI in 伊勢」を展開し、周遊・消費を促進した。

【H27】「伊勢お得旅商品券」を販売し、誘客、消費を促進した。

【H28】DMO 構築に向けた支援を行った。

【H29】H30 全国高等学校総合体育大会に向け、全国からの参加者や関係者に伊勢市の魅力を発信し、リピーターの確保に繋げるため、関係組織との連携を図り市民へのPRを含む、おもてなし事業の検討・準備を行っている。

【 ○ △ × 】

★課題★ 今後開催されるイベント等を活用し、市内の周遊及び消費の促進に繋がることや地域産業との連携を行う必要がある。

### 基本方針4「観光・交流を効果的に届ける ターゲット別PR戦略と検証可能な取り組み」

・ターゲットを絞り戦略的な情報発信を行い、結果の検証をしっかりと行うことが必要である。

【H26】首都圏、特に東京へのPR、JR東海とのタイアップなど時節に応じて取り組みをバージョンアップした。

【H27】JR東海・近畿日本鉄道との連携で観光キャンペーンを展開。オリジナルご朱印帳プレゼントを盛り込んだ旅行商品を発売した。

H26 同様、福岡ヤフオクドームで、さらに東京ドームでも大規模なPRイベントを実施した。

【H28】・鉄道事業者など公共交通機関との観光タイアップキャンペーンを実施した。

・日本、特に伊勢に対し興味のある外国人に対し、WEB上で動画を配信した。

【H29】・女性、若者とターゲットを絞った情報発信を実施した。

・ジャパンハウスでの展開も視野に入れ、アメリカ西海岸地域で日本文化としての伊勢を発信するため伊勢のPR事業を実施している。

・観光協会のホームページのリニューアルを行った。

【 ○ △ × 】

★課題★ 伊勢の観光客はリピーターが大半を占めているが、新規顧客確保のための取り組みも必要である。

## 基本方針5「観光・交流を広域で受け入れる 競争と協働視点での広域連携の推進」

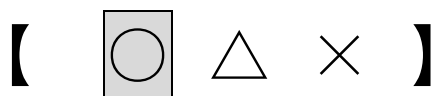
・広域連携することで、点ではなく面で誘客を図り、お互いの観光資源を有効活用することで共にさらなる発展を目指す。

【H27】お伊勢さんマラソンの担当部署を教育委員会から観光部署へ移した。今後、観光の視点でより発展させていく。

【H28】「市単独で実施」「広域で連携」とすみ分けを行い、引き続き情報発信を行った。

【H29】・平成 28 年度に環境省の「国立公園満喫プロジェクト」において、伊勢志摩国立公園がナショナルパーク化を目指すモデルケースに選定されたことから、伊勢志摩国立公園地域協議会が中心となり、訪日外国人利用者の受入環境整備を進めた。

・パートナーとの絆を深める旅を提案する「常若婚」のプランを官民連携により充実を図った。



★課題★ スケールメリットを活かしつつ、効果が見えるよう連携を進める必要がある。

## 基本方針6「観光・交流のつながりを磨く 市民の地域愛からにじみ出る「おかげさまの心」

・市民の地域愛を醸成し、高い「市民力」を持つ人材、将来の伊勢を担う人材の育成を図る必要がある。

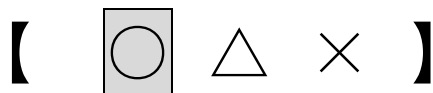
【H27】・「伊勢っ子」育て事業の実施を開始した。小学生高学年を対象に、楽しみながら観光案内などを体験しつつ、伊勢の歴史文化や観光に触れる場を設け、次世代の担い手につなげる。

・観光協会、商工会議所と協働で、おもてなしやバリアフリーに関する講習会「おもてなし基礎講座」を開催した。

【H28】平成 27 年度と同様、「伊勢っ子」育て事業や観光事業者向けの研修を実施した。

【H29】・人材育成を図るため、平成 28 年度に引き続き、「伊勢っ子」育て事業や観光事業者向けの研修を実施した。

・民俗行事の次世代継承のため、各団体の若手を対象とした講演会及び市内各世帯へ広報誌の配布を行った。(伊勢御遷宮委員会が主体で実施)



★課題★ ・地域の方々の熱意を活かす場や直接観光客と接するスタッフのスキルアップの場が必要。